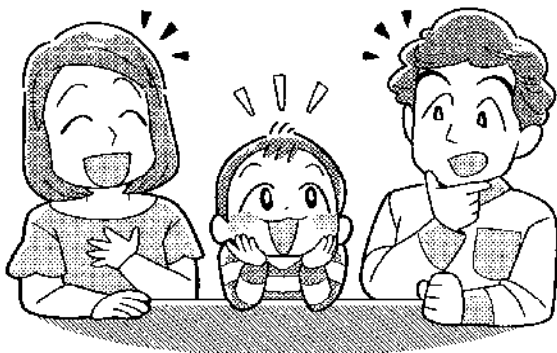


## 幼少期から育みたい言葉の使い方

幼児期は言葉で自分の気持ちを表現したり、人と言葉を伝え合ったりするなど、さまざまな体験を通して、言葉を豊かにする時期です。いろいろな言葉で、たくさん話しかけてください。

### 人とのかかわりの中で身につく言葉



子どもはおとなの言葉をまねしたり、遊びの中に取り込んだりして、言葉を使うようになります。言葉のやりとりを重ねることで、子どもたちは自分の気持ちを伝えようとします。そして、相手が言葉で答えることを通して、言葉の使い方を身につけていきます。子どもの言葉に耳を傾けて、言葉を返すことが大切です。



**おはよう**

あさの あいさつ

**ありがとう**

おれいの ことば

**やめて**

いやな ことを された とき

**いただきます**

たべる まえの あいさつ

**だいじょうぶ?**

おともだちが ころんだ とき

**おやすみなさい**

ねる まえの あいさつ

**ごめんね**

あやまる とき

**いっしょに あそぼう**

おともだちと あそびたい とき

## 「いいよ」も「いや」も子どもの大切な気持ち

幼児期の子どもが、おもちゃを貸してといわれて「いや」と断ることがあります。子どもは、いつも遊んでいるおもちゃを自分のものと感じるので、これは当たり前のことです。無理に「いいよっていおうね」などという、子どもは気持ちを認めてもらえなかったと感じることがあります。

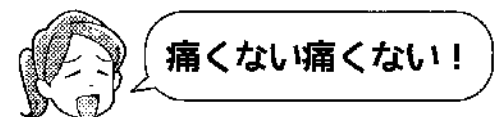
まずは「まだ使っているんだね」などと受け入れる言葉をかけ、その後「仲よく遊ぶにはどうしたらいい?」と話してみましょう。

子どもは気持ちを受け入れてもらう経験を通じて、自分と他者の気持ちの違いに気づき、少しずつ歩み寄れるようになります。

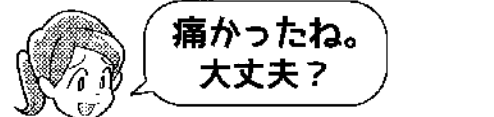


## 子どもに寄り添い、気持ちを動かす言葉かけ

**転んで痛いと言っている時**

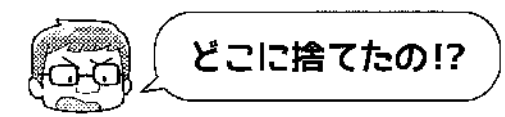


**受け入れる言葉に**

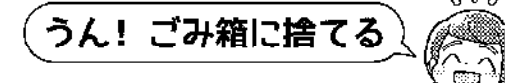
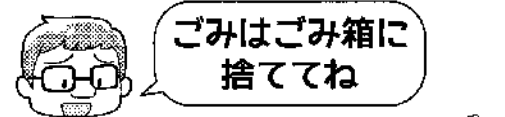


痛かったのに否定されたと思う子もいます。受け入れる言葉をかけてみてください。

**床にごみをばい捨てした時**



**具体的に指示する言葉に**



疑問形で叱ると伝わらないことも。してほしいことを指示してみてください。